

セーフティネット医療※

※重症心身障がい、筋ジストロフィーを含む神経・筋難病、結核などの、他の医療機関ではアプローチが困難な分野の医療



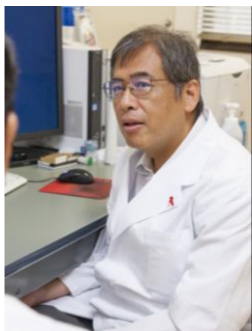
エイズ治療の最前線

薬の服用だけで日常生活を送れる時代に

エイズは死の病気ではない

「エイズ（AIDS：後天性免疫不全症候群）は、もはや死を覚悟しないといけなない病気ではありません」

そう語るのは大阪医療センターの白阪琢磨医師（臨床研究センター エイズ先端医療研究部長）です。エイズはヒト免



疫不全ウイルス（HIV）に感染することでおこる病気ですが、HIVに感染したらすぐにエイズになるわけではありません。ごく簡単にいうと、感染により免疫力が落ちて、いろんな症状が出た状態をエイズと呼んでいます。より理解してほしいのは、医療技術の進歩により、HIVに感染しても、薬で増殖を抑えてエイズになることを完全に阻止できるようになっているという現状です。



名古屋医療センターの横幕能行医師（エイズ総合診療部長）も、「HIV 感染は一生付き合っていく必要がある慢性疾患といえるが、確実な効果のある医療を提供できる」と断言します。

現実を知らず、誤解や偏見が残ったままの病気、それがHIV感染症/エイズなのです。

治療の基本は薬を飲むだけ

HIV 感染症はエイズを発症しない限り、他の慢性疾患の治療と同じように通院治療で済みます。また治療といっても、毎日忘れずに薬を服用するだけで、日常生活に大きな支障が出るような制限は全くありません。それどころか、慢性疾患として代表的な糖尿病では、食事制限や注射するインスリンの量の調整などが必要ですが、HIV 感染症の治療にはそうした制限もなく、何らかの症状が出ていない限り、これまで通りの食事や運動をして何ら問題ありません。



抗 HIV 剤は錠剤で、多剤併用療法を行いますが、複数の薬をひとつの錠剤にした合剤が処方されることが多いので、基本的に 1 日 1 回 1 錠を服用するだけです。それほど治療は進歩しており、エイズ=死の病というイメージとは程遠いのが現実です。横幕医師も「HIV に感染していない人と同様に、普通の生活が送れるんです！」と笑顔で語ります。

専門知識をもつ多職種でサポート

全国の 8 ブロック（地域）に 14 カ所あるエイズ治療のブロック拠点病院では、高い専門知識をもつ医師や看護師をはじめ、専任の薬剤師・臨床心理士・医療ソーシャルワーカーが中心となったチーム医療で患者さんを支えており、非常にきめ細かな医療を提供しながら、生活や心の支援も行っています。



その証拠に、名古屋医療センターの羽柴知恵子副看護師長によれば、「通院するようになって、むしろ健康的になった」と笑顔で話す患者さんが多いと

いいます。また、大阪医療センターの下司有加副看護師長も、「私たちのチームには、患者さんに良かれと思



うことを職種に関係なく自由に言える環境があり、それが患者さんの安心につながっている」といいます。

治療の進歩とともに、こうしたサポート体制が構築されているからこそ、家族にさえ簡単には打ち明けられない患者さんたちの、心のより所にもなっているのです。

国立病院機構の役割

国立病院機構の全 142 病院のうち 69 病院がエイズ診療拠点病院であり、さらに仙台・名古屋・大阪・九州の 4 病院はブロック拠点病院として、重症化して入院が必要となったエイズ患者さんへの治療に取り組んでいます。

ただ、ブロック拠点病院の役割は治療だけではありません。新しい治療法の研究はもちろん、患者さんの精神的負担軽減まで考慮したチーム医療の基本方針の作成など、新しい治療・ケアのあり方を確立することも大きな使命です。また、医師ですらエイズに対し理解不足であることもある現状を踏まえ、正確な情報の発信、さまざま医療スタッフへの研修なども院内・院外で実施しています。さらに中学校や高校での講演など、社会への啓発活動にも力を入れています。



白阪医師をはじめとした全員が指摘するのは、今後の課題はむしろ、治療そのものよりも、未発見の HIV 感染者をいかに早く見つけることができるかだといいます。エイズを発症する前に治療が開始できれば死を恐れる心配は全くなく、大切なパートナーにうつしてしまうことも防げるのです。

エイズ検査は全国の保健所で実施されており、匿名による簡単な血液検査のみで、通常1時間ほどで結果が判明します。“もしかすると”という心当たりのある人は、自分や大切な人の安心のために、一度検査を受けてみてください。

治療を支えるもうひとつの役割

治療は、患者さんと直接会うことのない研究者たちにも支えられています。例えば、名古屋医療センター



のエイズ治療開発センターには研究部門が設置されており、日本の薬剤耐性 HIV（従来の薬が効かなくなるのが薬剤耐性）に関する膨大なデータが蓄積されています。世界からも注目されているこうしたデータを基に、今後の治療にとって大きな支障になりかねない、HIV ウイルスに対する薬剤耐性検査などに力を入れ、より効果的な最先端医療の研究が日々行われています。

■大阪医療センター（大阪市）



NHO 近畿地区の施設の中でも中核を担う拠点のひとつ。HIV感染者の診察・治療は感染症内科で対応している。HIV/AIDS 先端医療開発センターを設置して、診療機能および臨床研究体制を強化し、他の医療機関の職員に対してエイズ診療に関する継続的な研修も実施している。許可病床数 694 床。

■名古屋医療センター（名古屋市）



がん・救急・高度医療を中心とした東海地域の拠点病院のひとつ。エイズ診療ブロック拠点病院として、先端研究の成果や情報を臨床現場にフィードバックする役割を担い、さらには名古屋大学大学院医学研究科の連携講座を開設し、医学生の育成にも注力している。許可病床数 740 床。